

研究分野	漁場環境	部名	浅海環境部
研究課題名	漁場環境監視調査		
予算区分	交付金 (県 1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H. 17 ~ H. 21		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

漁獲対象生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、陸奥湾沿岸域における水質環境の現況を調査する。また、生物モニタリング調査（底質調査を含む）を行うことによって底泥中に棲息する生物（マクロベントス）の種類・現存量を指標とし、陸奥湾沿岸水域の漁場環境の長期的な変化を監視する。

〈試験研究方法〉

1 水質調査

(1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1~11 の 11 定点

(2) 調査回数 毎月 1 回

(3) 調査方法及び項目

気象、海象、水色、透明度

水温、塩分、D0、pH、栄養塩

2 生物モニタリング調査

(1) 調査海域 陸奥湾内 St. 1~9 の 9 定点

マクロベントスは St. 7~9 の 3 定点

(2) 調査回数 7, 9 月の 2 回/年

(3) 調査方法及び項目

気象、海象、底質（粒度組成, COD, TS, IL）、

底生生物（マクロベントスの個体数, 湿重量測定, 種の同定, 多様度指数）

〈結果の概要・要約〉

底層の D0 の最低値は St. 4 の 9 月に 3.25mg/L（飽和度 42%）と、貧酸素状態がみられ、St. 5 の 10 月にも 4.39mg/L（飽和度 59%）まで低下した。

栄養塩は、全湾の平均値でみて、NO₂ が 11~1 月に、SiO₂ が 11~2 月に高い値を示し、特に SiO₂ は 1, 2 月にこれまでの最高値となったほかは、概ねこれまでの変化範囲内で推移した。

底質調査、底生生物調査結果とも概ねこれまでの範囲内であった。

〈今後の問題点〉 陸奥湾内の栄養塩レベルとホタテガイ成長等との関連性追求。

〈次年度の具体的計画〉 調査の継続、底層の貧酸素状態の監視強化。栄養塩分析結果からの陸奥湾内の餌料環境の詳細な検討。

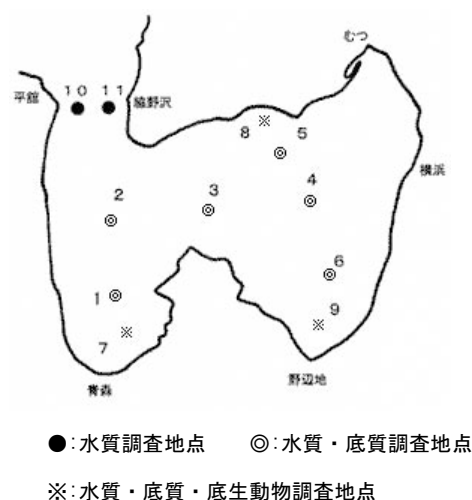
〈結果の発表・活用状況等〉

平成 17 年度漁場環境総合監視調査報告書作成予定

平成 18 年度漁場環境保全推進事業東北ブロック会議で報告予定

平成 18 年度漁業公害調査指導事業検討会で報告予定

平成 18 年度漁業環境保全総合美化推進委員会で報告予定



〈主要成果の具体的なデータ〉

